

# 1990年代末におけるベトナムの工業の立地形態

大塚 昌利\*      高木 亨\*  
松井 秀郎\*\*    横畠 康吉\*\*\*

キーワード：工業、中央工業、地方工業、外資系企業、ベトナム

## I はじめに

### 1. 研究の目的と方法

ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナムとする）が、ドイモイ（刷新）政策を採択したのが1986年であった。長く続いたベトナム戦争後もカンボジアへの侵攻、中越紛争があり、経済再建は遅々としていた。1994年にアメリカ合衆国がベトナムに対して経済制裁を解除し、1995年には両国が国交正常化を果たし、同年ベトナムはASEANに加盟した。これに先立つ1991年には輸出加工区（EPZ = Export Processing Zone）を制定し、さらに1994年には工業区（IZ = Industrial Zone）を制定、税制上の優遇措置もあって工業団地の開発が進んだ。

本論は1998年におけるベトナムの工業について、特にその業種の特性と地域的な立地動向について明らかにするものである。この時期は上述のようにASEANの一員となって、新たな経済再建に向けて歩み始めた時期にあたり、外国の支援も受けながら都市域ならびに工業化への基盤整備がスタートして、軌道に乗ろうとする時期に位置づけることが出来る。近年のベトナムの発展はいちじるしく、その動向を明らかにすることは、今後この時期の状況とを比較考察することも可能になる。

ベトナムの工業に関する報告は多いが、人文地理学の分野からの最近のものとしては、工業化と日本の進出企業について研究したものがある（堀、2002）。このなかで堀は日本とベトナムの間における貿易や投資実績を分析し、工業団地やインフラストラクチャーの整備状況の推移と現況を述べるとともに、日本から進出した企業での詳細な聞き取り調査を行い、各社の進出の経緯、現状等を明らかにし、また問題点を指摘している。

南北に細長いベトナムでは、自然環境の違いと同時に人口や所得の偏在もみられ、地域較差の解消は今後も国

家的、地域的な問題であり続けるであろう。そこで工業の地域的な展開を明らかにしておくことも、本論の目的のひとつである。

本論では資料として、ベトナムの Statistical Publishing House が刊行している『Statistical Yearbook』の1999年版を用いた。文中ならびに図表における地名等は、ベトナム語をアルファベット表記したものである。また、日本企業の事例については、2001年12月における現地調査によるものである。

### 2. ベトナムの産業区分と行政区分

以下の章で工業の発達状況や地域的特性について考察するが、最初にベトナムの産業区分と行政区分を示しておく。

#### 1) 産業区分

ベトナムの産業区分は複雑であり、それを示したのが表 - 1 である。まず経済セクター別では国营セクターと非国营セクターに分かれており、国营セクターは中央と地方に区分される。非国营セクターは全て地方である。このほかに外国投資資本を管轄するセクターがある。一方、管理階級別では中央工業と地方工業があり、中央工業はそれぞれ管理する省ごとに分かれている。地方工業は国营セクターに属する国营企業と、非国营セクターにおける民間工業とに区分されている。

以下において「中央工業」と「地方工業」という用語がでてくることになる。日本にはない区分で耳慣れない用語であるが、そのままこの用語を用いることとする。

#### 2) 行政区分

ベトナムの行政区分は、中央直轄市と省に区分される。中央直轄市はハノイ、ハイフォン、ホーチミン、ダナン

\* 立正大学地球環境科学部

\*\* 文部科学省初等中等教育局

\*\*\* 四国大学経営情報学部



Fig. 1 Cities and Provinces of Vietnam (1998)  
(CDCR) mean the City under Direct Central Rule

Table. 1 Divisions of Industrial Sector of Vietnam

Economic Sector		Classification by Administration	
State Sector	Central Sector	Central Industry	Ministry of Manufacturing Ministry of Agriculture & Rural Development Ministry of Construction Other Ministries
	Local Sector	Local Industry	State Industry Non-state Industry
Non-State Sector			
Foreign Invested Sector			

Table. 2 Output and ratio of secondary industry (1998)

industries	output (Billion Dongs)	ratio (%)
mining	21,117.8	14.0
manufacturing	120,665.5	79.8
electricity, gas & water	9,440.0	6.2
total	151,223.3	100.0

source: 『Statistical Yearbook』 1999.

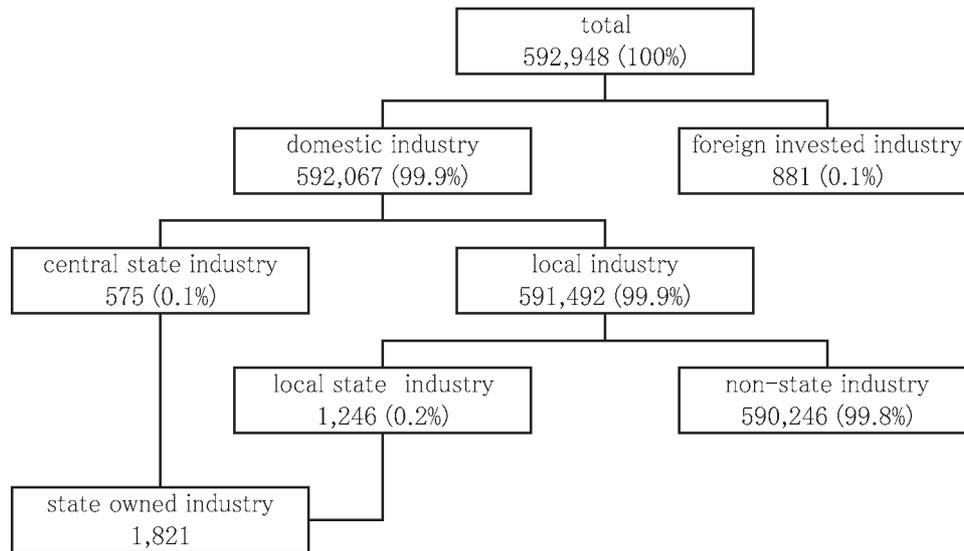


Fig. 2 Enterprises of secondary industry by the sector (1998)

source: 『Statistical Yearbook』 1999.

の4市からなり、省の数は57ある。直轄市と省を合わせた自治体の数は61になり(図-1)、これらは8の地区に区分されている。中央直轄市のなかには町、農村区、市街区に分かれ、省の下には県、市、町があるが(池田、2001)、『Statistical Yearbook』には、この61の自治体ごとに人口や産業をはじめとする数値が示されている。

## II 工業の区分と特性

### 1. 事業所数

1998年におけるベトナムの第二次産業の事業所数は592,948を数えている。ただし、これは工業だけでなく、

鉱業とエネルギー部門を含んでいる。『Statistical Yearbook』によれば、工業生産額は約120兆ドン(1998年当時、1米ドルは約1.3万ドン)であった。この時期の一人あたりの国民総生産(GNP)は350ドルで、173か国中145位という低位にあった。表-2に示すように、第二次産業に占める工業の生産額は約80%に達しており、したがって事業所数の大部分は工業であるとみてよい。工業従事者数は、約297万人である(1998年)。なお、2000年のベトナムの国内総生産額に占める工業の比率は18.7%であり、商業(14.5%)、鉱業(9.5%)を上回るものの、農業の24.3%を下回っていた。

図-2に示すように、第二次産業の事業所数総計

592,948のうち、国内企業が99.9%に達しており、外資系企業は881社で0.1%にすぎない。大多数を占める国内企業のうち、中央工業は575にすぎず、ほとんどが地方工業ということになる。さらに、地方工業のなかの省営企業は1,246にすぎず、大部分が民間企業である。ベトナムの第二次産業の事業所数は公営企業が0.3%、外資系企業が0.1%にすぎず、圧倒的に民間企業によっているということになる。

## 2. 生産額

生産額については、工業のデータを得ることができる。それを示したのが図 - 3 である。全体の工業生産額はほぼ120兆ドンである。この内訳をセクターごとにもとみると、国内企業が約89兆ドンで約74%、外資系企業が約31兆ドンで26%となっている。事業所数では1%に満たない外資系企業が、全体の26%を占めていることになる。

次に国内企業についてみると、約89兆ドンのうち中央工業の生産高は39%にとどまり、地方工業が61%を占めるに至っている。国営企業に省営企業を加えた公営企業は約64%に達してはいるが、地方の民間企業が36%強を占めていることになる。とはいえ民間企業が事業所数では99%を超えていた点からすれば、生産力が高いところは公営企業のセクターであり、その半分ほどが民間企業によって、さらに全体の4分の1ほどが外資系企業によって生産されているということになる。

## III 業種特性

### 1. 主要業種の生産額

国全体の工業生産額を、業種別に示したのが表 - 3 である。最も生産額が多いのは食料品・飲料工業で、約36兆ドンに達しており、全体のほぼ30%を占めている。これに次ぐのが非鉄金属工業で約13.7兆ドン、11.4%である。

これより下位では、7～8兆ドンに位置するものとして繊維、化学、皮革関連の工業がある。ただし、繊維工業に衣服工業を加えれば12兆ドンで、広義での繊維産業は非鉄金属工業に近い生産額になる。金属、機械工業は低調であり、ベトナムの工業は食料品・飲料工業に特化した構成になっているといつてよい。

### 2. 国内企業のセクター別業種特性

#### 1) 中央工業の特性

central state のセクターにおける工業で、もっとも高い生産額を上げているのも食料品・飲料 (7.8兆ドン) と非鉄金属製品 (6.7兆ドン) である。これに次ぐのが化学 (3.4兆ドン) と繊維 (3.4兆ドン) で、上位の業種は国全体と同じ順位になっている。ただし、食料品・飲料の構成比は22.6%と低位であるのに対して、非鉄金属のそれは19.2%へと上昇している。また、タバコの生産額構成比が8.1% (2.8兆ドン) となっている。

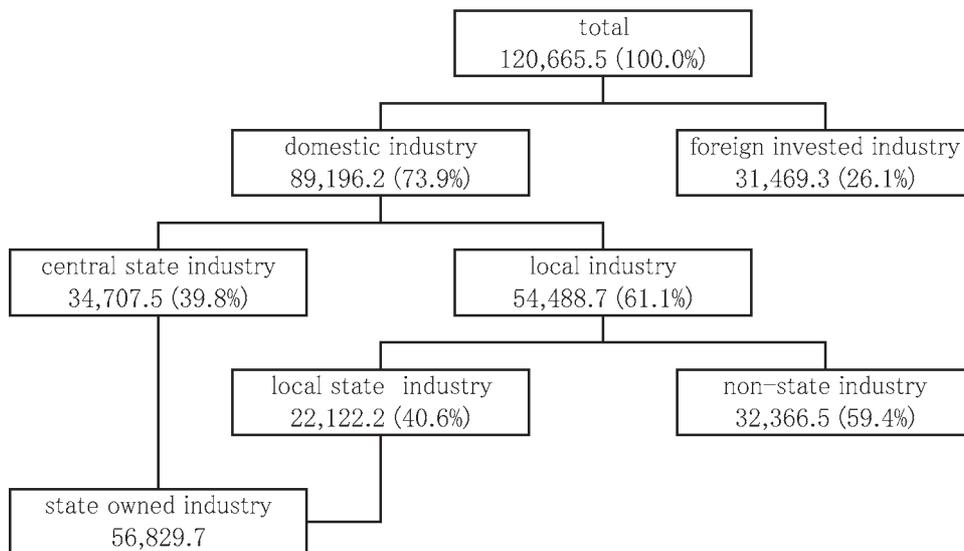


Fig. 3 Gross output of manufacturing industry by the sector (1998, Billion Dongs)  
source: 『Statistical Yearbook』 1999.

Table. 3 Manufacturing gross output by kinds of industrial activity (1998, Billion Dongs)

	total	domestic	state owned	central state	local industry	localstate	non-state	foreign invested
Total	120665.5	89196.2	56829.7	34707.5	54488.7	22122.2	32366.5	31469.3
Food & beverage	36495.6	28090.8	16826.5	7857.7	20233.1	8968.8	11264.3	8404.8
Cigarettes & tobacco	4894.9	4864.7	4856.7	2824.4	2040.3	2032.3	8.0	30.2
Textile products	8366.0	6101.3	4207.6	3394.6	2706.7	813.0	1893.7	2264.7
Garments	4666.6	3608.2	1524.3	656.6	2951.6	867.7	2083.9	1058.4
Leather tanning & processing	7082.5	3720.5	2051.8	569.1	3151.4	1482.7	1668.7	3362.0
Wood & wood products	2956.3	2661.9	598.9	151.2	2510.7	447.7	2063.0	294.4
Furnitures	2815.4	2200.4	275.5	39.7	2160.7	235.8	1924.9	615.0
Paper & paper products	3177.8	2738.1	1727.2	1320.2	1417.9	407.0	1010.9	439.7
Printing, copying & publishing	1868.1	1836.8	1685.2	633.4	1203.4	1051.8	151.6	31.3
Coke & petroleum	107.8	107.8	-	-	107.8	-	107.8	-
Chemicals	8143.6	6212.9	5451.5	3421.6	2791.3	2029.9	761.4	1930.7
Rubber & plastics	4417.5	3548.6	1596.7	1277.7	2270.9	319.0	1951.9	868.9
Non metallic products	13744.5	11417.1	8567.3	6664.8	4752.3	1902.5	2849.8	2327.4
Metallic	4079.6	2550.5	2193.9	2011.4	539.1	182.5	356.6	1529.1
Metal products	4210.3	3076.9	590.2	32.1	2756.8	270.1	2486.7	1133.4
Machinery & equipment	2049.9	1737.2	1348.0	901.0	836.2	447.0	389.2	312.7
Computer & office equipment	228.0	-	-	-	-	-	-	228.0
Electric & electric products	2308.0	1664.8	1361.9	1229.1	435.7	132.8	302.9	643.2
Radio, TV, telecommunication equipments	3477.5	777.9	685.1	594.5	183.4	90.6	92.8	2699.6
Medical & accurate instruments	368.2	115.4	77.8	61.7	53.7	16.1	37.6	252.8
Assembling motor vehicles	1667.7	547.7	297.8	165.4	382.3	132.4	249.9	1120.0
Production other meant of transports	3378.8	1455.8	905.8	613.3	842.5	292.5	550.0	1923.0
Reproduced goods	160.9	160.9	-	-	160.9	-	160.9	-

source: 『Statistical Yearbook』 1999.

## 2) 地方工業の特性

local industry と local state industry のセクターとも、類似の傾向にある。中央工業で比率の低かった食料品・飲料工業はともに1位でその構成比を高めており、local state industry では全体の40.5% (約9兆ドン) を占めるまでになっている。local industry でも37.1% (2兆ドン)、non-state industry も34.8% (1.1兆ドン) である。このことからみても、食料品・飲料工業が農村立地型工業であることを示している。

食料品・飲料工業の構成比が高くなった分、それ以外の工業の構成比が低くなっている。local industry では、食料品・飲料工業以外はすべて10%以下であり、次いで非鉄金属製品が8%台 (4.8兆ドン) で、繊維、衣服、皮革、化学、金属製品工業が5%台を保っているにすぎない。local state industry でも同様の傾向を示し、たばこ、化学、非鉄金属製品がやや高い程度である。二つのセクターに属する工業とも、機械系の工業は極めて低い地位にある。

## 3. 外資系企業の特性

### 1) ベトナムへの投資状況

1993年の新土地法により、土地の使用権が認められるようになって、外資系企業が進出するようになった。外国からのベトナムへの主な投資状況 (2001年) をみると、件数ではもっとも多いのが台湾で137件、韓国が76件、日本が40件となっている。投資金額では4件にすぎないオランダが5.74億米ドルで、以下台湾 (4.56億ドル)、フランス (10件、4.07億米ドル)、シンガポール (21件、2.71億米ドル)、日本 (1.63億米ドル) の順になっている。

業種別では重工業がもっとも多く、件数では147件にすぎないが、15.4億米ドルで工業全体の約62%に達している。軽工業は200件で最大であるが、3.6億米ドルにとどまっている。これに食品加工業の1.8億米ドル (35件) を加えても、全体の約22%である。ただし、これらを合わせると、382件、20.9億米ドルとなり、工業は全投資件数および投資額のおよそ79%、84%をそれぞれ占めて

いることになる。

## 2) 外資系企業による工業の動向

外資系企業は、前述したように極めて少ない事業所数ながら、全体の26%の生産額を占めるに至っている。外資系企業でもっとも多いのは食料品・飲料工業の8.4兆ドンで、全生産額の26.7%に及んでいる。これに次ぐのが皮革工業（3.4兆ドン）であるが、10%をわずかに上回る程度である。以下、ラジオ、テレビジョンをはじめとする通信機器（2.7兆ドン、8.6%）や非鉄金属製品（2.3兆ドン、7.4%）、繊維製品（2.5兆ドン）が続いている。

外資系企業は食品と皮革、繊維工業に集中しつつも、それ以外は軽工業分野よりもむしろ金属、機械工業分野に進出しており、低廉な人件費に指向した組立型工業の立地形態といえよう。外資系企業が進出していない業種はコークス・石油精製と再生品のみであり、逆にコンピューターと事務機器は外資系企業によってのみ生産されている。

## IV 主要製品

前章で主な業種からベトナムの工業構成についてみてきたが、ここでは主要な製品について具体的にみることにする（表 - 4）。これは『Statistical Yearbook』に掲載されているものであるが、単位が生産額でなく重量や長さなどの数量表示になっている。そのため、同一の基準で生産の多寡を比較することは出来ない。

### 1. 食料品・飲料工業

伝統的な調味料である魚醤が地方工業を中心に生産されるほか、味の素㈱による化学調味料も生産されている。ほかに果実缶詰、植物油、砂糖類、茶などの原料加工型工業があり、精米、トウモロコシの精製もこの範疇に入る。飲料では炭酸飲料が中央工業によって生産されるほか、蒸留酒、ビールが製造されている。蒸留酒は米を原料にした地酒で、地方での生産が多い。ベトナム人にもビールが好まれるようになり、生産量も増加傾向にあり、外資系企業の進出もみられる。

### 2. 繊維・衣服工業

繊維関連製品では各種の工業が興っており、繊維のほかニット製品、タオル・ハンカチーフ、カーペット、靴下などがみられる。全般的には中央工業での生産が多い

が、蚊帳用の繊維やカーペットは地方工業中心であり、農村工業として発達しているようにみえる。スグを編んだ敷物も地方工業で行われている。

### 3. 金属・機械工業

鉄鋼と錫の生産がみられるが、素材産業は低調であることが伺える。機械工業では農業機械が主流であり、農機具、脱穀機、精米機、ポンプなどが示されている。農機具や脱穀機にしても、手動のものが多く、また、手押し車も含めて地方工業での生産が主体であり、農村の機械化が未だ進捗していないことが伺われる。これはほぼ同時期における中国の農村における状況と類似しているともいえる（大塚、1988）。ただし機械化の遅れについては、耕地が狭いこともその一因となっている。なお、ポンプのうちほぼ半数は、農業用ポンプである。

機械の母と呼ばれる工作機械の生産台数が565台にとどまっていることが、ベトナムの現在の機械工業の低調さをそのまま物語っている。したがって表に示された主要製品も種類が少なく、農業用機械を除けばエンジン、バッテリー、変圧器、扇風機といった電気機械である。電気機械のなかでも、テレビジョン、ラジオカセットコーダーもまだ少ない。自転車の生産も11万台程度である。自動車は外資系企業による4,905台にとどまっており、二輪自動車（オートバイ）が25.6万台であった。

### 4. 化学系工業

自転車の生産に関連して、自転車用のタイヤ、チューブが主として中央工業によって行われ、タイヤなど自動車用のゴム製品も主として外資系企業により生産されている。ガラスも生産されるが、量的にはそれほど多くない。窯業の中では工業用磁器のほか、陶都として知られるパッチャンなどに集積している民窯での陶磁器が表にも表れている。このほか、焼レンガ、タイル類の製造も行われており、セメントが中央工業と外資系企業により生産されている。石灰岩が豊富な地域には、セメント工場の立地がみられる。

その他の化学系工業では、除虫剤、化学繊維、塗料、医薬品、石鹸・洗剤などがある。これらは中央工業による生産が多く、塗料は外資系企業による比率が高くなっている。

### 5. その他の工業

上記以外の工業では、素材を加工した安価な皮革製品や靴類があり、開発途上国によくみられるタイプの工業

Table. 4 Output of main manufacturing products by sector in Vietnam (1998)

phosphaticores (thousand tons)		liquor (thousand litres)		Hosiery (thousand pieces)		sunfuric acid (ton)	
total	599	total	96093	total	29414	total	22864
central	599	central	5313	central	27278	central	22864
local	0	local	89632	local	774	local	0
foreign inv.	0	foreign inv.	1148	foreign inv.	1362	foreign inv.	0
fish sauce (million litres)		beer (million litres)		sedge mats (thousand pairs)		soda NaOH (ton)	
total	164	total	670	total	26952	total	10444
central	34	central	448	central	0	central	10444
local	130	local	37	local	26952	local	0
foreign inv.	0	foreign inv.	185	foreign inv.	0	foreign inv.	0
canned fruits (ton)		cigarettes (pill. packets)		ready made clothes (thousand pieces)		insecticides (ton)	
total	20026	total	2195	total	275046	total	20223
central	15779	central	2178	central	90137	central	18672
local	0	local	14	local	126622	local	4
foreign inv.	4247	foreign inv.	3	foreign inv.	58287	foreign inv.	1547
vegetable oils (ton)		textile fibres (ton)		hard leathers (ton)		chemical fertilizers (thousand tons)	
total	94648	total	69076	total	5	total	978
central	48097	central	64402	central	5	central	975
local	17577	local	394	local	0	local	3
foreign inv.	28974	foreign inv.	4280	foreign inv.	0	foreign inv.	0
sodium gluta mate (thousand tons)		knitting wool (ton)		soft leathers (thousand sheets)		paint (ton)	
total	104	total	2243	total	4350	total	42513
central	0	central	1683	central	3872	central	20970
local	0	local	416	local	151	local	1076
foreign inv.	104	foreign inv.	144	foreign inv.	327	foreign inv.	20467
tinned milks (million tins)		fibrics of all kinds (million m)		leathes shoes & sandals (thousand pairs)		soldering sticks (ton)	
total	185	total	315	total	77037	total	4127
central	139	central	148	central	30732	central	4127
local	0	local	80	local	27876	local	0
foreign inv.	46	foreign inv.	87	foreign inv.	18429	foreign inv.	0
milling rice, maize (thousand tons)		cotton fabric for mosquitonet (thous. m)		fabric shoes (thousand pairs)		medicical ampoules (million tubes)	
total	19242	total	19085	total	33436	total	446
central	1208	central	0	central	30698	central	433
local	17994	local	19085	local	1528	local	9
foreign inv.	40	foreign inv.	0	foreign inv.	1210	foreign inv.	4
sugar, sugar syrups (thousand tons)		towels, hand-kerchiefs (million peaces)		saw wood (thousand m <sup>3</sup> )		medicical tablets (million pills)	
total	736	total	337	total	2705	total	18536
central	257	central	160	central	1012	central	18186
local	396	local	143	local	1663	local	155
foreign inv.	83	foreign inv.	34	foreign inv.	30	foreign inv.	195
granulated sugar (thousand tons)		woollen carpets (thousand m <sup>2</sup> )		paper, covers (thousand tons)		liquid medicine (thousand litres)	
total	143	total	759	total	311	total	3191
central	143	central	46	central	222	central	2987
local	0	local	704	local	73	local	11
foreign inv.	0	foreign inv.	9	foreign inv.	16	foreign inv.	193
tea (ton)		jute carpets (thousand m <sup>2</sup> )		printed pages (million pages)		washing soap & powder (thous. tons)	
total	52668	total	664	total	167254	total	229
central	25894	central	0	central	163850	central	101
local	20984	local	664	local	3404	local	26
foreign inv.	5790	foreign inv.	0	foreign inv.	0	foreign inv.	102

tubes, tires for motor venture (thous. sets)	building glass (thousand m <sup>2</sup> )	hydraulic pumps (piece)	transformers (piece)
total 929	total 4600	total 3556	total 7817
central 212	central 4600	central 3556	central 4368
local 0	local 0	local 0	local 1948
foreign inv. 717	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 1501
bicycle tyres (thousand pieces)	thermos bottles (thousand pieces)	tractor sand lorries (piece)	batteries (1.5V) (million pieces)
total 16945	total 879	total 1726	total 302
central 11761	central 879	central 1700	central 302
local 1780	local 0	local 26	local 0
foreign inv. 3404	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 0
glass products (thousand tons)	lamps (thousand pieces)	threshing machines (piece)	wire (km)
total 105	total 30384	total 7882	total 126567
central 9	central 30384	central 388	central 124766
local 21	local 0	local 7494	local 1801
foreign inv. 75	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 0
personal porcelain (million pieces)	steel (thousand tons)	threshing machines (no motor) (piece)	electric fan (piece)
total 182	total 1077	total 8600	total 358207
central 16	central 504	central 300	central 310013
local 165	local 22	local 8300	local 22194
foreign inv. 1	foreign inv. 551	foreign inv. 0	foreign inv. 26000
industrial porcelain (thousand pieces)	stick tin (ton)	rices mills (piece)	autocar assembly (piece)
total 4426	total 2320	total 13909	total 4905
central 89	central 2260	central 13909	central 0
local 4337	local 60	local 0	local 0
foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 4905
bricks (million pieces)	hand farming imple- ments (thous. pieces)	machine tools (piece)	assembly motorbikes (thousand pieces)
total 7697	total 12703	total 565	total 256
central 1936	central 34	central 565	central 20
local 5750	local 12669	local 0	local 5
foreign inv. 11	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 231
tiles (million pieces)	locks (thousand pieces)	diesel mortars (piece)	television installatoin (thousand pieces)
total 434	total 3456	total 6883	total 921
central 52	central 3255	central 6371	central 162
local 382	local 201	local 512	local 0
foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 759
cement (thousand ton)	hand barrows (piece)	electricity rotaring engines (piece)	radio cassettes assem- bly (thous. pieces)
total 9738	total 12705	total 41172	total 204
central 7735	central 224	central 40000	central 122
local 7	local 12481	local 1172	local 0
foreign inv. 1996	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 82
tile sheets (thousand m <sup>2</sup> )	pumps (piece)	fountain pens (thousand pieces)	bicycles (thousand pieces)
total 23035	total 3082	total 2090	total 112
central 22876	central 2403	central 2090	central 112
local 159	local 679	local 0	local 0
foreign inv. 4600	foreign inv. 0	foreign inv. 0	foreign inv. 0

Source: 『Statistical Yearbook』 1999.

であるといつてよい(大塚, 1989)。魔法瓶、錠前、ランプ、万年筆などが主要製品として表の中にリストアップされている点も興味深い。これらの工業には外資系企業が参入するものはあまりなく、あってもその比率は高くない。それらは中央工業のみで生産されるものもあれば、地方工業が加わっているのもみられる。

#### 6. 業種から見た工業の特性

木工品や竹製品などの工業もあるが、総じて衰退傾向にある。付加価値の低さがその根底にあるが、政府はこうした伝統産業の継続を推進している。一方、農畜産物も加工すれば付加価値が高くなる。ホーチミン市南方の稲作地域での事例をあげると、果物は米の5倍以上の収入になり、エビは12倍になる。住民達はこれらを栽培あるいは養殖し、さらには加工したいと望んでいる。しかし、流通基盤が整っていないに加えて、加工場を作る技術や資金も得られないのが現状である。農家の後継者は工場に勤務することを望んで農業を継ごうとせず、彼らを地域にとどまらせるための、工業化の推進もままならないというのが、農村部の課題の一つであるといえる。

機械製品に限らず、繊維製品や衣服の一部も同様であるが、特に外資系企業によるこれらの製品は、国内市場を意図したものではなく、広く世界を市場としているものである。そのため国内向けの製品と、国外向けの製品という二つのタイプの存在が、業種特性の上からも読みとれる。

### IV 国内工業の地域特性

前章でベトナムの工業の業種別特性が明らかになった。そこでベトナムの工業が地域的にどのように展開しているかを、市・省別にみることにする。上述のように、ベトナムの工業は国营・非国营企業など、いくつかのセクターに分かれているが、ここでは国内全体の工業(domestic industry)についてみることにする。

#### 1) 事業所数からみた特性

外資系企業を除く国内の事業所数592,067を、市・省ごとに構成比で表したのが図-4である。全体的には中国からラオスにかけての北部(北東部地区・北西部地区)と、中南部のカンボジアに国境を接する地域(中部高地地区)の山間部で少なく、それ以外にはある程度の立地が認められる。事業所が最も多く集積するのは、ハノイ

市からハイフォン市にかけての地域からその南部にかけての地域(紅河デルタ地区)である。もっとも集積しているのはハイフォン市の南、トンキン湾に面しているタイビン省で、52,940の事業所があり、これに次ぐのがハノイ市の南に位置するハタイ省(事業所数48,326)である。この2省で全体の17.1%となり、その周辺のナムディン(第4位)、ハイズオン、ハナムの各省とハノイ市がこれに次いでいる。紅河デルタ地区には全国の事業所の35.6%が集中していることになる。

第3位の集積を示すのが中部沿岸地区のもっとも北に位置するタインホア省(事業所数40,246)である。この地区はトンキン湾から南シナ海の海岸沿いに細く伸びており、全体の17.3%を占める地区で、そのもっとも北に

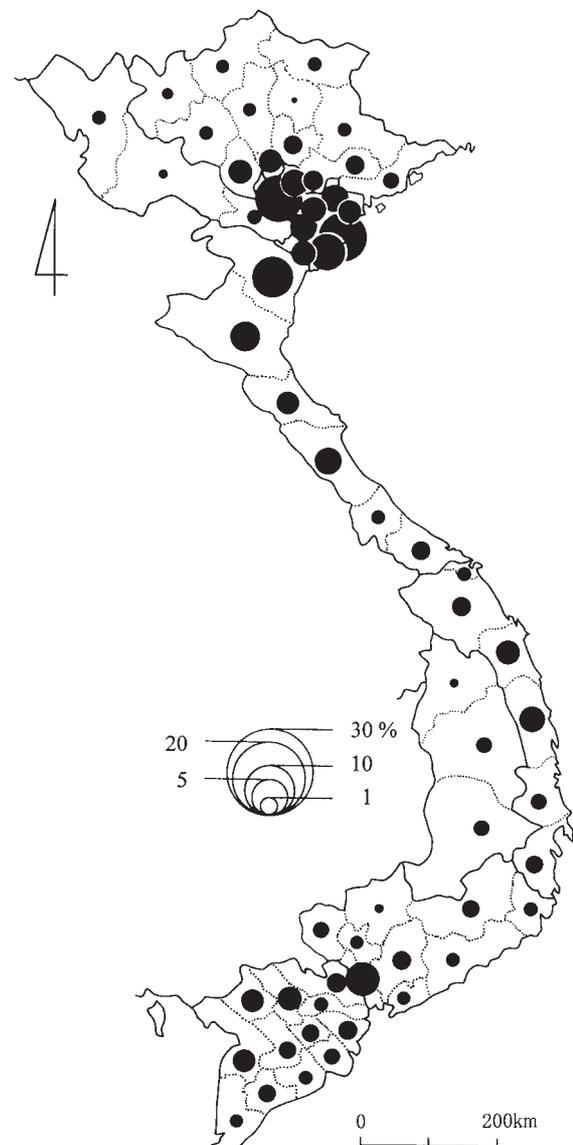


Fig. 4 Distribution of domestic manufacturing enterprises by city and province (1998)  
source: 『Statistical Yearbook』 1999.

位置するのがタインホア省である。第5位がベトナムで最大の人口を擁するホーチミン市(事業所数24,076)である。南東部地区には最も南西端に位置するホーチミン市以外、工業の集積はあまりみられない。しかし、ホーチミン市の南西部に位置するメコンデルタ地区は、12の省を合わせると全体の13.7%を占めることになる。

## 2) 生産額からみた特性

市・省別に工業生産額をみると(図-5)、事業所数の分布とはやや異なる傾向を示し、地域較差が増大していることが明らかである。最大の生産額を上げているのはホーチミン市で、事業所数では4.1%を占めるにすぎないのが、国内の工業生産額約102.8兆ドンの30.2% (31

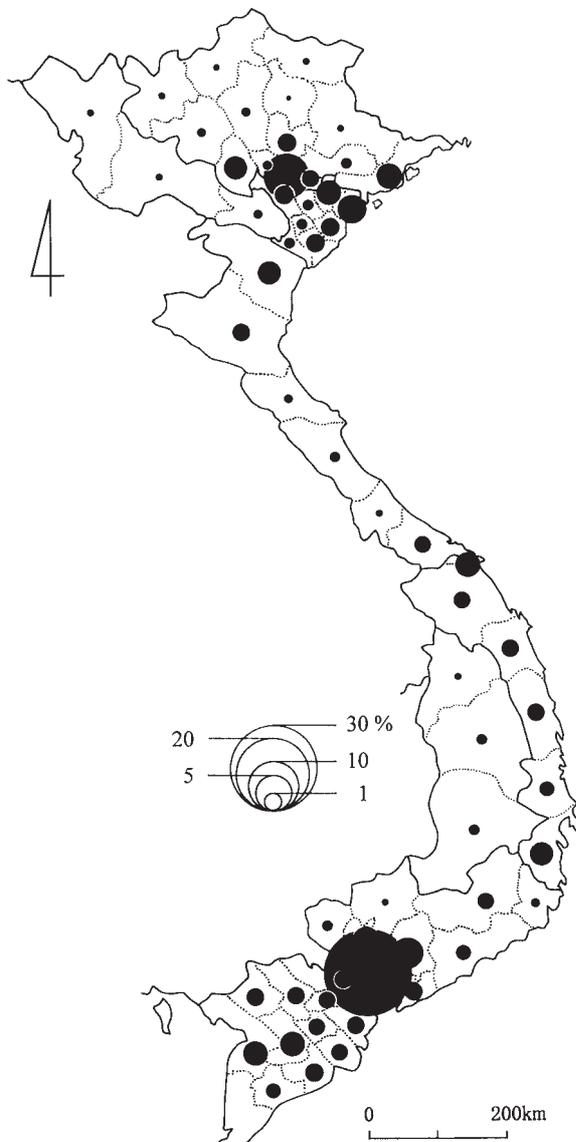


Fig. 5 Distribution of output of domestic manufacturing by city and province (1998)  
source: 『Statistical Yearbook』 1999.

兆ドン)を占めるに至っている。このホーチミン市への集中が、それ以外の地域の比率を小さなものにする結果となっている。これに次ぐのがハノイ市(8.2兆ドン)であるが、そのシェアは約8%を占めるにすぎない。とはいえ事業所数の構成比は2.5%にすぎないので、生産額の比率は相対的に高いことになる。ハノイ市を含めて紅河デルタ地区の生産額は高いが、事業所数の集積度に比べればその比率を低めているといえる。第3位はホーチミン市の東にあるドンナイ省(3.8兆ドン)で、ホーチミン市の工業化の拡大を受け入れている地域である。

メコンデルタ地区は事業所数と生産額の構成比に大差はないが、山間部の北東地区や北西地区および中央高地地区は比率をかなり低めており、トンキン湾から南シナ海に面した海岸部でも同様の傾向がみられる。そのなかにあって、国土のほぼ中央部に位置し、良港をもつダナン市が、事業所数(3,878、0.7%)は少ないものの、生産額では12位(1.6兆ドン、1.6%)と相対的に高くなっている。

## V 外資系企業の立地動向

### 1. 事業所数からみた地域特性

外資系企業の事業所数881のうち、36.1%にあたる318がホーチミン市に集中している(図-6)。これに次ぐのが4工業団地をもつホーチミン市の東に接するドンナイ省で、14.2%にあたる125が立地しており、さらに、ホーチミン市の北東部に接するピンズオン省(109事業所、3.5%)がこれに次いでいる。さらにホーチミン市の西に位置するロンアン省(第6位、20事業所、2.3%)を加えると、これら1市3省で全国の外資系企業の65%(572事業所)となる。この結果、外資系企業は南部のこの地域に集中していることがわかる。

第4位と第5位に位置するのが、北部の首都ハノイ市(103事業所)とハノイの外港的役割を担っているハイフォン市(39事業所)であるが、この2市で142事業所となり、16.1%を占めている。ハノイ市やハイフォン市の周辺にも進出はみられるが、目立つほどにはなっていない。

中部のダナン市が7位にあり、以上の市・省を除くと進出は低調である。外資系の事業所が全くない省が15あり、1~2事業所の進出のみが20省にのぼっている。

結局、ベトナムにおける外資系企業による工業の進出は、圧倒的に南部のホーチミン市を中心とした地域であり、北部のハノイ市周辺からハイフォン市にかけての地域がこれに次ぐという、二極型の立地展開となっている。

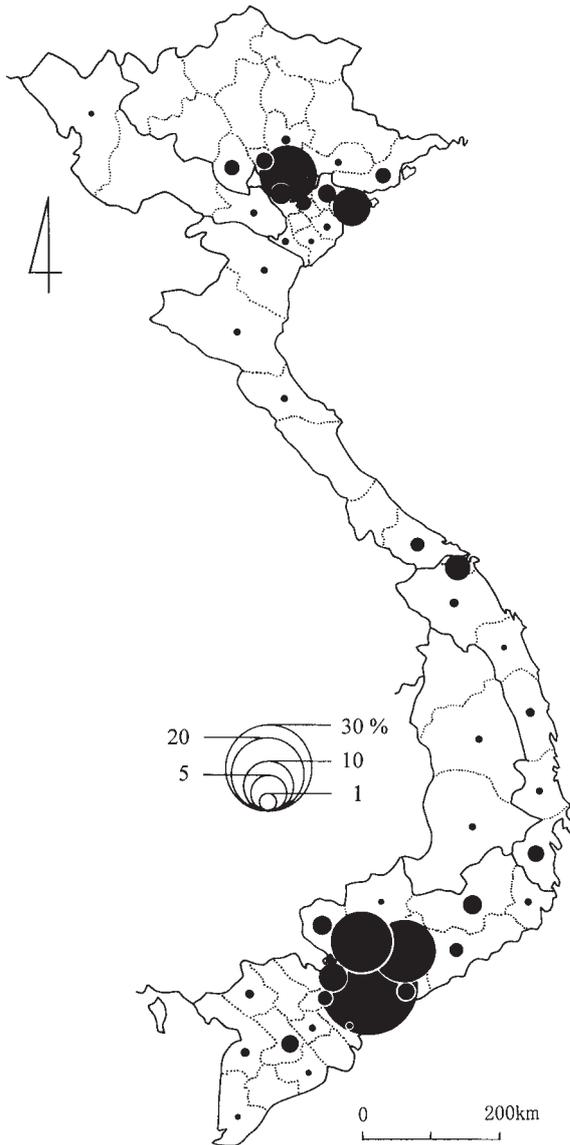


Fig. 6 Distribution of foreign invested manufacturing enterprises by city and province (1998)  
source: 『Statistical Yearbook』 1999.

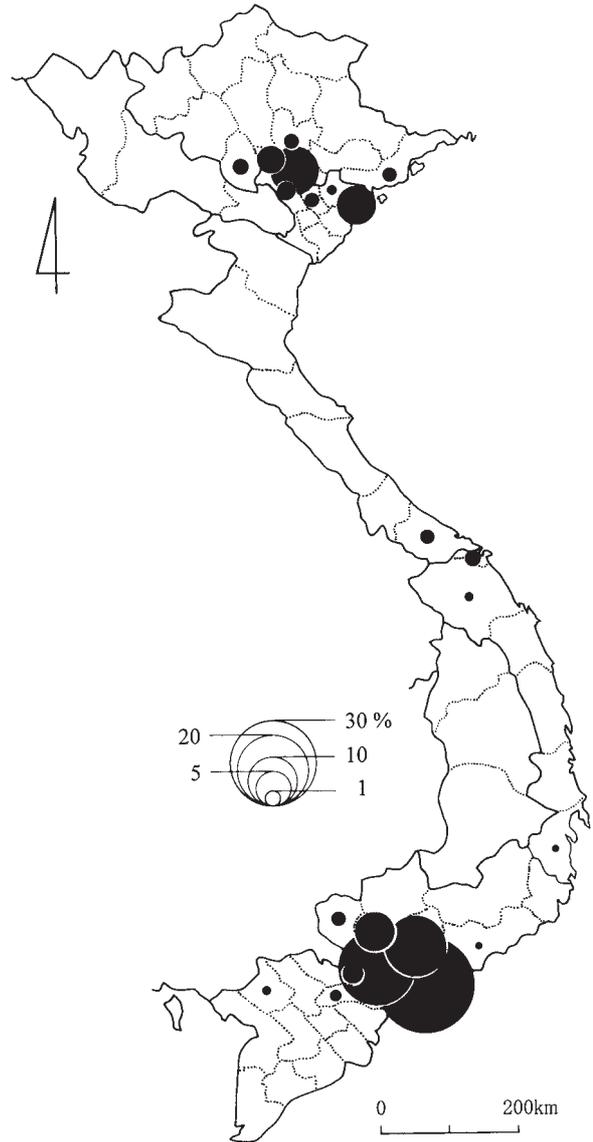


Fig. 7 Distribution of output of foreign invested manufacturing by city and province (1998)  
less than 0.1% is not represented  
source: 『Statistical Yearbook』 1999.

## 2. 生産額からみた地域特性

生産額からみた外資系企業の地域的状況も、事業所数のそれと同様の二極型の傾向を示すが、両者の差はさらに拡大している。生産額を市・省別に示したのが図 - 7 である。ただし、0.1%以下は表示していない。南部のホーチミン市を中心とした地域と、北部のハノイ市を中心とした地域に集中する点は事業所の集中状況と同様であるが、ホーチミン市を中心とする地域が占める比率は74.7%にまで上昇し、ハノイ市・ハイフォン市とその周辺を含めた地域が20%程度となる。

外資系企業はこの2地域で95%に達する生産額を上げ

ていることになる。なかでもホーチミン市の南東部に位置するバーリアブンタウ省は、事業所数は7件にすぎないものの、全体の生産額の35.6%を占めるに至っており、20.8%のホーチミン市を上回る最大の省となっている。これらの市・省には大規模な工業団地が造成されており、そこに進出した外資系企業の集積が、以上のような数字を生む原動力となっている。

## 3. 進出企業の立地事例

工業団地は国営、省営をはじめ、外国の商社や建設企業、あるいは共同出資などによって造成、運営されてい

る。外国企業がベトナムに進出する場合、工業団地に進出する場合と、それ以外に進出する場合とがある。工業団地の形成や運営、進出企業の立地形態などについては今後明らかにする予定であるが、工業団地に進出する場合は団地のシステム化された運営方法により、比較的スムーズに行われるとみてよい。

これに対して1企業が単独で進出する場合、当該企業には国や省との交渉をはじめ、立地点の決定などかなりの負担がかかってくることになる。そこで以下において、単独でベトナムに進出した企業の事例を示して、どのような点を考慮し、どのようなプロセスで進出したのかをみることにする。

ベトナムのほぼ中央部に位置し、ベトナム最後のグエン王朝がおかれたフエ市に、M酒造合資会社がある。本社は福岡県甘木市にあり、1997年に竣工式を行い同年に生産を開始した酒造会社である。

M社は1995年にベトナム政府の認可を受け、次いで立地場所の選定にはいった。当社が進出するにあたって検討した事項、ならびに調査当時の状況は以下のとおりである。

#### 1) ベトナムを選んだ理由

原料となる米が豊富に得られることであった。米については、清酒にしやすい品種である「IR64」(International Rice 64)を使用することが出来るようになった。精白時に回転を速めることによって、米に丸みをもたせることはすでに可能であった。なお、酵母の種は日本から取り寄せている。

低価格で生産するために、安い人件費を求めた。

#### 2) フエ市を立地点に選んだ理由

重要な条件の一つが水であった。設立の認可を受けてから地下水を求めて、順次北から南に向かって調査を進め、フエ市に至って条件に合う地下水を得ることができた。日本から持参した浄水器を使うまでもない、良質の地下水が得られた。地下水は150mの深さから汲み上げているが、ベトナムで使える掘削機の能力はこの深さを掘るのが限度であった。鉄分やベトナム戦争時の枯葉剤の浸透等を考慮して、56項目にわたって日本で検査した結果、すべての項目を満足するものであった。地下水の使用量は、調査時の2000年には年間120klであった。なお、この地の水の良さに関して、社長の「さすが王城の地に選ばれただけのことはある」という一語は、真偽のほどは別にして印象的であった。

工場はフエ市内からやや離れた丘陵地にあり、もとはサッカー場であったため、整地する必要もほとんどなかった。敷地面積は約1haで、20年間で1,200万円に相当する土地使用料を、一括割引で政府に支払った。

また、省知事と市長から強い要望があった点もフエ市を選ぶ一つの条件となった。なおM社は合併した場合、後に生じかもしれない煩わしさを避けるため、単独で進出した。

#### 3) 製品

年間を通じて稼働しているが、夏場に焼酎を生産し、冬場に清酒を製造している。温度管理等はコンピュータで管理しているが、夏季を無事乗り越えることに神経を集中する。これは強力な雑菌の存在も考えられるため、夏季は空気に全く触れることのない熱交換機を使用している。

#### 4) 従業員

設立当時は60名の従業員であったが、2000年には40名となっている。このうち日本人が2名で、他はベトナム人である。日本で育ち日本の大学で発酵学を学んだベトナム人が社長の片腕として、なくてはならない存在になっている。従業員には1級から5級までの技能給を導入しており、地元フエ大学の出身者が多い。給与も当地では高額であり、採用にあたっての競争率はかなり高くなっている。

#### 5) 流通形態

製品の30~40%が日本向けで、ベトナム国内への出荷が20%強である。ほかにマレーシアやインドネシア等に向けられ、一部はヨーロッパへも出荷されている。ダナン港からコンテナで出荷される。日本向けは原酒をタンクに詰めて出荷するが3,000本程度が限度であり、また日本以外は瓶詰めで出荷するため、輸送コストが問題になっている。

#### 6) 技術面の課題

現地調達主義をとり実際にそうしてきたが、ガラスの製造・加工技術の低さが障害になっている。例えば720ml入りの瓶を作る技術がなく、一升瓶を作る技術も慣行もない。そのため700mlの瓶で出荷するということがならざるをえない。1.8l瓶や300ml瓶は日本から調達している。

## VI おわりに

ベトナムの工業について、1989年のデータをもとに業種の特性をとらえ、さらに事業所数、生産額の地域的特性について明らかにした。事業所数と生産額については国内の企業と外資系企業にわけるとともに、日本から進出した企業の一例を示した。

業種の特性からは、国営企業による食品工業や金属・機械工業と、民間企業による農村工業の存在が認められた。地域的特性については、すべての市・省に工業の立地が認められるものの、南部のホーチミン市を中心とする地域と、ハノイ市を中心にハイフォン市に至る地域に集中するという二極構造が認められ、生産額でみるとこの2地域とそれ以外の地域との較差がより大きいことが明らかになった。

外資系企業については、数は少ないものの生産額は国全体の4分の1を超えるに至っており、重要性を高めている。また、外資系企業の進出が、ベトナムにおける工業の二極集中型という形態を一層際立たせているともいえる。

本論は1990年代後期の状況を統計から明らかにしたも

ので、今後ベトナムの工業の地域的特性を明らかにする上での参考とするものである。開発が著しいとはいえ、まだ発展途上にあり、都市・農山村の間の地域格差も大きい。そのためには工業の具体的な立地展開や工業団地の動向、工場の実態調査等を進める必要がある。それらは今後の課題としたい。

## 参考文献

- 池部 亮 (2001) : 『ビジネスガイド ベトナム』 日本貿易振興会, 190p.
- 大塚昌利 (1989) : イタリア・スペイン・ポルトガルの製靴工業, 立正大学大学院紀要, 第5号, 1 - 20.
- 大塚昌利 (1998) : 中国江西省における工業の存立形態, 地域研究, 39 - 1, 14 - 29.
- 日本アセアンセンター (2003) : 『2003 ASEAN-JAPAN』 Statistical Pocketbook. 113p.
- ベトナム経済研究所 (2003) : 『2003年版ベトナム資料集』 日本アセアンセンター, 192p.
- 堀 英男 (2002) : ベトナムの工業化と進出日本企業の現況, 岐阜地理, 45号, 11 - 35.
- General Statistical Office (2000) : 『Statistical Yearbook』 1999, Statistical Publishing House, 438p.

## Location Forms of the Manufacturing Industry in Vietnam in the end of 1990s - Presentation for 1998 -

OHTSUKA Masatoshi\*, TAKAGI Akira\*, MATSUI Hideo\*\*, YOKOHATA Yasuyoshi\*\*\*

\*Faculty of Geo-Environmental Science, Rissho University

\*\*Elementary and Secondary Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

\*\*\*Faculty of Management and Information Science, Shikoku University

This paper intends to explain the location forms of the manufacturing industry in Vietnam in 1998. In those days Vietnam was one of the developing countries. The GNP for each person was only 350 US\$ and remained at 145th in the 173 countries in 1998. Vietnam was backward in the industrialization and in the domestic economy the gross output of the industry was lower than the agricultural that.

There were 592,067 enterprises of the domestic manufacturing industry in this country with the government and the private enterprises and the foreign invested enterprises located only 881 in 1998. The gross output was only 151,223.3 Billion Dong and the ratio of the domestic industry was about 74% and foreign invested enterprises occupied about 26%.

The most developing industry was foods and beverages reached about 30% of the industrial gross output. Next was the nonferrous metals industry but the gross output was only 11.4%. And after these industries textile, chemical, leather industries kept on. We could watch the modern industrial factories such as sugar, cement, automobile assembly, motorcycle assembly and electric machines etc. including the foreign invested factories. On the other side we found the many kinds of the traditional and the rural industrial products such wooden wares, textile goods, pottery wares and or the like.

In Vietnam there were many kinds of factories distributed widely without mountainous districts. But there were two core districts. One of them was in the zone of northern part in Vietnam from in and around Ha Noi City which is the capital city to Hai Phong City which is the biggest port city in this country, the other one was the district of southern part in and around Ho Chi Minh City which is the most populous city. By the number of factories, from Ha Noi to Hai Phong formed the most concentrated industrial zone, but looked from the output, T.P. Ho Chi Min was the most developing industrial district in the country.

Foreign invested industrial enterprises were also concentrated in T.P. Ho Chi Minh and the outskirts districts like Ba Ria-Vung Tau, Dong Nai and Binh Duong Provinces. Another concentrated district was the zone from Ha Noi to Hai Phong. Of all others the area took the highest output in the all cities and provinces was Ba Ria-Vung Tau Province which built the large scale industrial parks.

Keywords: manufacturing industry, central industry, local industry,  
foreign invested industry, Vietnam